



ニュースを地図帳で解説

今、日本で、世界で、起きていること

東北福祉大学教授 有田 和正



増える！「地域ブランド」

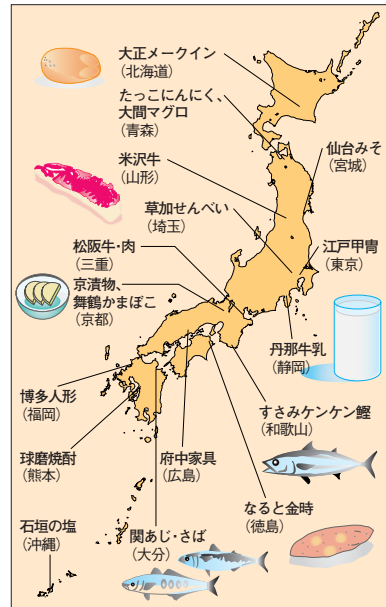
お母さんたちが、「ブランド物がほしい」といっているのを聞いたことがあるでしょう。

これと同じように、「地域」にもブランド物があります。

今、「地域ブランド」で地域を活性化させようという取り組みが全国に広がっています。以前から地名と商品やサービスを組み合わせた地域団体商標はありましたが、「夕張メロン」のような全国的に有名な特産品に限られていました。2006年の商標法改正で大幅に基準が緩和され、06年秋には52件だった登録数が、07年6月には224件に急増しています。京都府は133件の登録をし、ダントツの1位です。

具体的な例をあげてみましょう。伊豆半島のつけ根にある静岡県函南町の丹那盆地では、120年も前から酪農を始め、現在は23戸の農家が1000頭の乳牛を飼育しています。この「丹那牛乳」が今年4月「地域ブランド」に登録されました。6月から牛乳パックのデザインを一新したところ、売上高は20%増え、取引する店も今までの約300店から、50店以上増えそうで、やがて、神奈川、東京へと広げたいそうです。

和牛の横綱、三重県「松阪牛」「松阪肉」は、生産者が加入する14団体が、地域ブランドとして登録、利用できます。関係団体が協議会を開いて、商標権の管理を徹底することを確認したそうです。すでに店名などに「松阪牛」を使っている店はよいが、新しく使う場合は、協議会の許可が必要です。「松阪牛」や大分の「関あじ・さば」は生産量の約数10倍の量が出ているというので、協議会の取組み次第で、流通の適正化が進む可能性もあります。



地域ブランドの例

- * 地図帳で函南町や松阪市を確認してみましょう。静岡や、東京までの距離も測ってみましょう。
- * 地域ブランドのいくつかは(博多人形など)地図帳の絵記号で見つけることができます。



p.32



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 (初訂版)』
p.28 (左)、p.20 (右)





平成の大合併で、 ほぼ全県が「市」になる大分県

現在、大分県には2007年6月までに14市が確立しています。なかでも、由布市と豊後大野市は、合併して新しい市名になったものです。

合併するのではないかといわれながら合併していない町が、玖珠町、九重町、日出町、それに遠く離れている島のため、合併はむずかしいといわれている姫島村です。4つの町村では、今のところ合併協議は行われていないようです。



大分県（2007年8月）



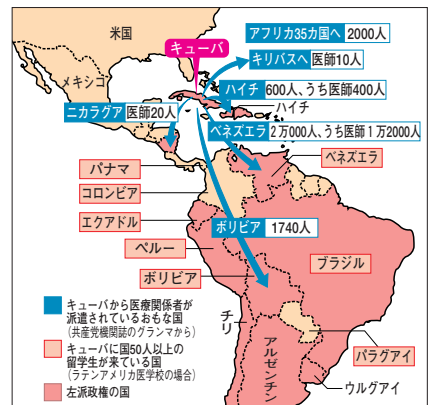
医者育てて売り出すキューバ

キューバの首都ハバナ郊外にある「ラテンアメリカ医学校」の学生たちは、おもに中南米からきた留学生です。チリ、ボリビア、ホンジュラスなどアフリカなど28か国からきた若者、約4000人がここで最初の2年半をすごします。

医学を志す貧困家庭出身の若者を集め、医師の卵に育てて国に帰そうという試みです。費用はなんと「無料」です。1998年に中米各国を襲ったハリケーンのと看、医師不足がわかり、カストロ国家評議会議長が思いついたそうです。アメリカ合衆国からも90人きています。ここを卒業後、全員が故国で医師になれるわけではありません。国家試験が待っている国もありますが、とにかくここで教育を受けた医学生は、3期目の1500人が2007年7月に巣立ちました。

キューバは、1959年に革命をおこし、後ろだてだった旧ソ連が91年に崩壊すると、経済がゆきづまりました。これをのりこえ、白衣を着た医療関係者が国の担い手になっています。今、キューバ全国で89か国の学生25000人が医学を学び、キューバからは医師17000人を含む医療関係者32000人が72か国に派遣されています。

津波があればインドネシアへ、地震があればパキスタンへも、緊急部隊が飛ぶのです。地元の富裕層の医師たちが近よりたがらない地区に足をふみ入れ、献身的に働くキューバの医師たち。ただ、必ずしも待遇はよいとはいえず、アメリカへ亡命し働いている医療関係者もでています。



キューバと海外諸国との医療関係者の往来

*地図帳でキューバを確認してみましょう。ボリビア、ホンジュラスなどの国もさがしてみましょう。小さな国がたくさんありますからよくみてください。

